



TITLE:

京都外科集談会第368回例会

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都外科集談会第368回例会. 日本外科宝函 1960, 29(6): 1784-1786

ISSUE DATE:

1960-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/207160>

RIGHT:

# 京都外科集談会第368回例会

昭和35年6月30日

## (1) Isotope による脳水腫の鑑別診断

外 I・ 尾形誠宏・近藤裕之  
三沢郁夫・辻 宏

Bell は RI<sup>131</sup>SA を用いて脳水腫の鑑別に役立たせ得たと報告しているが、吾々は NaI<sup>131</sup>20~70 $\mu$ c を用い追試してみた。被検者は頭蓋内疾患の8例で、原則として側脳室内注入20分後に、Inion より3~4cm上方を起点として、正中線上で Inion, Cisterna magna の部を経て、脊椎管上を皮膚面より3~4cm等間隔に Scintillation Counter を用いて測定した。小さい Source を用いて試験的な基準線を作製し、この基準線に脳室系より吸収され血行を経て体内循環する Isotope の影響によると考えられる16%の Activity を加えた新たな境界線を設けた。起点より7~8cm以上離れ、本来ならば negligible となるべき所で尚この新たな境界線より高い測定値を示すものを交通性脳水腫、之より低い値を示すときは閉塞性か狭窄がある場合であり、前述の基準線に略一致するかそれ以下のときは明らかに閉塞性脳水腫と判定した。P. S. P. 法、気脳術、剖検等で本診断法の正しいことを確かめた。

## (2) 術前に診断し得た成人の Arnold-Chiari 症候群の1例

外 I 近藤祐之・辻 宏

Arnold-Chiari 症候群の報告例は、我国に於ては比較的少く、又、その術前診断例を我々は見出し得なかつた。

我々は最近教室で経験した1例について、臨床症状及びX線所見より、術前 Arnold-Chiari 症候群と診断し、手術でこれを確認し得たので報告する。

患者は24才の男。約3年前より漸次、下部脳神経症状、脳幹及び脊髄圧迫等による錐体路症状及び知覚異常、小脳症状等を引きおこして入院した。X線では、後頭頭と第1頸椎、第2頸椎と第3頸椎の癒合と頸椎々管拡大、Myelography で第2第3頸椎間で特異的と思われる上方に biconcavity を持った陰影欠損を認め、又腰椎穿刺で Queckenstedt 現象は陽性であつた。手術として、後頭下開頭、第1~第3頸椎々弓切除で除圧したが、この時、両側小脳扁桃が、第1第2頸椎間附近迄下降しているのを認めた。術後症状は若

干改良を見た。診断に関して文献的考察を行い、我々の術前診断の根拠について述べた。

## (3) 3才幼児脊髄腫瘍の1例

整形 深瀬 宏

症例は3才女子で、歩行障碍、両手関節、両指の運動障碍を主訴として来科す。ミエログラフィー所見は、腰椎穿刺により注入上行せしめた沃度油は第1第2胸椎間で、後頭下穿刺により注入下行せしめた沃度油は第4第5頸椎間で完全に停滞し、脊髄腫瘍の存在を考えさせた。発病後約6カ月目の5月18日手術施行す。第4頸椎より第2胸椎に至る椎弓切除術施行す。第5頸椎から第1胸椎の右側部位にて脊髄側面硬膜外に巨大な腫瘍を認め右第7頸神経根から発生している事を確かめた後に神経根茎を切断し腫瘍はほぼ一塊として摘出した。脊髄は左側方向に正常の約1/5の太さにまで圧迫され薄い板状を呈していた。病理組織学的にはノイリノームであり術後1カ月では右手関節、右指の運動障碍が軽度認められる他は全く正常に復し極めて良好な経過をとつている。

## (4) 慢性甲状腺炎の3例

大和高田市民病院外科

杉本雄三・倉橋道男・吉田排造  
村岡隆介

頸部の馬蹄型、弾性硬、無痛性腫瘍に気付き来院した3名の患者を、瀰慢性甲状腺腫と診断、手術の結果、組織学的に夫々異なつた慢性甲状腺であることを識つた。臨床的には3例とも甲状腺機能は略正常、腫瘍による圧迫等は無く手術時周囲との癒着も強くはなかつた。組織学的に69才女子の標本では橋本氏病の定型的な特徴を一様に具え、更年期後の女性であると云う点から、橋本氏病と考えてよからう。57才男子の標本では、著しい線維化が見られ、リーデル氏病と云う可き像を呈している。58才男子の標本では、両者の中間型とも云う可き像を呈しているが、橋本氏病が40才以上の女子に多いと云う点から、リーデル氏病の初期と考えるのが適当であらう。3例共臨床的に殆んど症状は差異がないのに拘わらず、組織学的に橋本氏病とリーデル氏病に分かれ、その相違点も細胞浸潤と線維化の程度の差によつて来るものであり、その鑑別診断

のむつかしさを痛感した。

### 追加 杉本雄三

奈良医大の北村教授の御厚意で沢山の標本とスライドを作って頂きました。時間の都合で講演中略しましたが、改めて全部供覧致します。巨細胞の様々なのが出て参りますが、これで見えていますとこれらの巨細胞は上皮性のものであつて、組織球性のものでないようには思えます。

#### (5) 胃石の1例

##### 外Ⅱ 清水俊丸

上腹部無痛性腫瘍を主訴とし、胃癌の疑いで入院した41才の女子に、レントゲン透視・胃鏡・胃カメラ検査を行い術前に胃内結石と判明した1例を経験した。

開腹術により胃内腔の彎曲に一致し、上、下に密接して存在していた大、中、小、3個の胃石を認めたが、胃小彎中央部に比較的大きな潰瘍を合併していたので、胃亜全剝術を施行良好な結果を得た。

#### (6) 診断に困難をきたした脾臓炎の3例

##### 大和高田市民病院外科

杉本雄三・吉田耕造・村岡隆介  
高瀬卓郎

最近の抗生物質の発達と共に急性脾臓炎は成書にその名をとどめ、我々の脳裡から忘れ去ろうとしている今日、我々は相次いで此の3例を何れも異なつた形で経験し、夫々誤診したので報告する。

1例目は脾臓膿瘍の形で、X線透視に際して総輸胆管に逆流したバリウム陰影を胆石と判断した。脾臓炎の際経口的に摂取した造影剤が、乳頭部括約筋不全の為、総輸胆管に逆流する事が稀にあると云われているが、興味ある所見である。

2例目は脾臓周囲膿瘍の形で、右季肋下部有痛性腫瘍を胆石による膿瘍と判断し開腹により網膜囊蓋膿症であり、その為に肝葉が持ち上げられ、腫瘍として触れていた事を識つた。

3例目は定型的な急性脾臓炎の症状を描いていたにも拘わらず、腹腔穿刺で得た血性膿性無臭の腹水の特異性を理解せず、開腹により、大網の点状壊死、脾臓の蜂窩織尖様壊死を診て、始めて本症である事を識つた。

#### (7) 胆嚢管嚢腫の1例

##### 外科Ⅰ 半田諒二

生後14カ月の女子で先天性胆嚢管嚢腫の1例を報告

した。

患者は3カ月前より腹部腫瘍を指摘されていたが黄疸、腹痛等はなかつた。後腹膜腫瘍の診断で開腹すると腫瘍は約800ccの胆汁を入れた胆嚢管嚢腫であつた。嚢腫及び胆嚢を剔出し肝管空腸吻合を行つたが経過は不良で術後12日目に死亡した。剖検は行い得なかつた。

#### (8) 若年者原発性肝癌の1例

##### 外科Ⅰ 半田諒二

12才の男子で肝硬変を伴うHepatomaの1例を報告した。小児には原発性肝癌は稀であるが、本例は肝硬変を伴い、4才で発病以来8年を経過していること、黄疸を伴つたこと等小児原発性肝癌としても2,3の特異な点をみる。

##### 質問 杉本雄三

Hepatomaに対するBiopsyはblutenする訳ですね。

##### 返答

Hepatomaの試験切片を切除して10年前やはりshock死におちいつた例を経験しているので最近同じ手術を行つた際には充分に時間をかけSpongellを使って丁寧に止血した。而も術後出血のため血圧は60に迄低下し漸く2~3000ccの輸血で救命し得た。

Biopsyで肝内に出血する場合がありますHepatomaの試験切片採取には大出血を予想して用意する必要がある。

#### (9) Foetus in foetu の2例

##### 外科Ⅱ 吉永道生・林惣三郎

非常に稀な後腹膜腔に存在したFoetus in foetuの2例を経験したので報告した。症例1は1才6カ月の男児。剔出標本は左上肢及び両下肢に相当する突起をもち、正常の皮膚で被われた、大人手拳大卵形の胎児で、頭部の大部分を欠くが毛髪、分節構造をもつ不完全な脊柱、脊髓、神経節、リンパ小節及び四肢部の管状骨を認めた。症例2は18才の男子。剔出標本は羊皮紙様膜で包まれた大人手拳大の卵形の腫瘍。その中に、豊富な長い頭髮と完全な皮膚、眼裂、鼻隆起をもつた頭部及び顔面部のみの胎児を有し、頭蓋骨、6本の良く発達した歯牙を認めた。

腫瘍剔出後、両症例共全治退院し、現在も健在である。

##### 質問・追加

##### 木村忠司

Foetus in foetuは一卵性双児であるから母体をなすtwinの半分とは同性である筈である。従つて母体

の発育に伴いその性 Hormon が foetus に作用すると思われるが、Tumor に Genitalorgan がなくとも、もし第2次性兆があるとすれば母体の hormon の影響があることを意味するのではあるまいか？

質問・追加

横 山 育 三

生体の性別を判定するのに細胞構造(パール氏小体)の level で検査する方法が提唱されているので、本症例でもこの検査を行つてみれば興味ある所見が得られるかもしれない。

答

肉眼的にも組織学的にも私達の調べた範囲では雌雄を判別出来ませんでした。

#### (10) 先天性下腿彎曲症の1例

公立豊岡病院整形外科

長 岡 正 泰・加 藤 広 嗣

生後1カ月目(男子)先天性下腿彎曲症(Heymanの第Ⅱ型)の1例に骨穿孔切骨矯正術を彎曲部頂点に行い本術式が骨侵襲を最少限度にとどめ且つ合目的治癒を見らしむるに優れた術式であることを強調すると共に治癒経過を臨床並びにレ線学的に追求した。

#### (11) 感染性距骨脱臼骨折の1治験例

厚生年金 玉造整形外科病院

林 瑞 庭

最近私は比較的稀有な外傷である距骨脱臼骨折で感染を来した。1例を経験した。

距骨々折の治療は転位していない骨折片をそのまま

温存し、軟部組織を多少犠牲にしても、転位骨折を正確に整復、強固に骨折部を固定することによつて、我々は優秀な結果を得ている。只この症例のように骨折部の感染を来した場合、已むなく距骨体部を速かに剔出しなければならないが、生着している距骨々頭及び頸部は、そのまま残置せしめ、下腿踝下関節面と、距骨頸部の骨折面、跟骨上関節面との間に骨性癒合を期待する方法が、従来の全剔出に比して予後が非常に良好であることを強調したい。

#### (12) 厚生年金玉造整形外科病院に於ける整形外科機能訓練に就いて

(其の3 巧緻訓練) (抄録)

厚生年金玉造整形外科病院

大 塚 哲 也

巧緻訓練を行つた成績をグラフに表わし、初頭急騰期及び漸進的上昇期との分析法を考案(大塚)説明し、成績を第Ⅰ型(正常)、第Ⅱ型(遅延型)、第Ⅲ型(異常)、第Ⅳ型(無効)に分け成績を表示した。次に平行線描写による積極性の判定を行い、又巧緻訓練の成績上昇的及び下降的と曜日並びに天候及び湿度、温度との関係を述べた。更に色紙による色彩判定について述べこれと、巧緻訓練の成績との検討。又絵画、作文についても述べた。